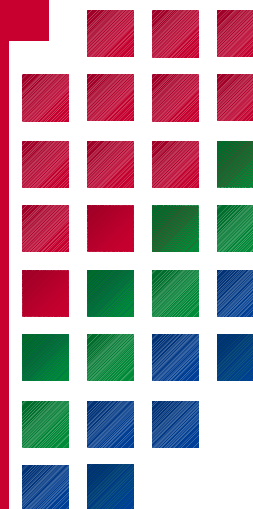




2021年3月期 第1四半期決算の概要

2020年 8月 7日



日本郵政グループ 決算の概要

■ 2021年3月期 第1四半期の経営成績

(億円)

	日本郵政グループ	日本郵政グループ		
		日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	27,930	9,279	3,876	16,963
前年同期比	△ 1,920 (△ 6.4%)	△ 176 (△ 1.9%)	△ 762 (△ 16.4%)	△ 1,225 (△ 6.7%)
経常利益	1,332	192	420	699
前年同期比	△ 690 (△ 34.1%)	△ 184 (△ 49.0%)	△ 636 (△ 60.2%)	+ 139 (+ 24.9%)
四半期純利益	787	166	332	467
前年同期比	△ 562 (△ 41.7%)	△ 187 (△ 52.9%)	△ 446 (△ 57.3%)	+ 129 (+ 38.3%)

■ 2021年3月期 通期業績予想 (2020年5月公表)

経常利益	5,200	400	2,750	2,000
(1Q進捗率)	(25.6%)	(48.0%)	(15.2%)	(35.0%)
当期純利益	2,800	0	2,000	1,240
(1Q進捗率)	(28.1%)	(－%)	(16.6%)	(37.7%)

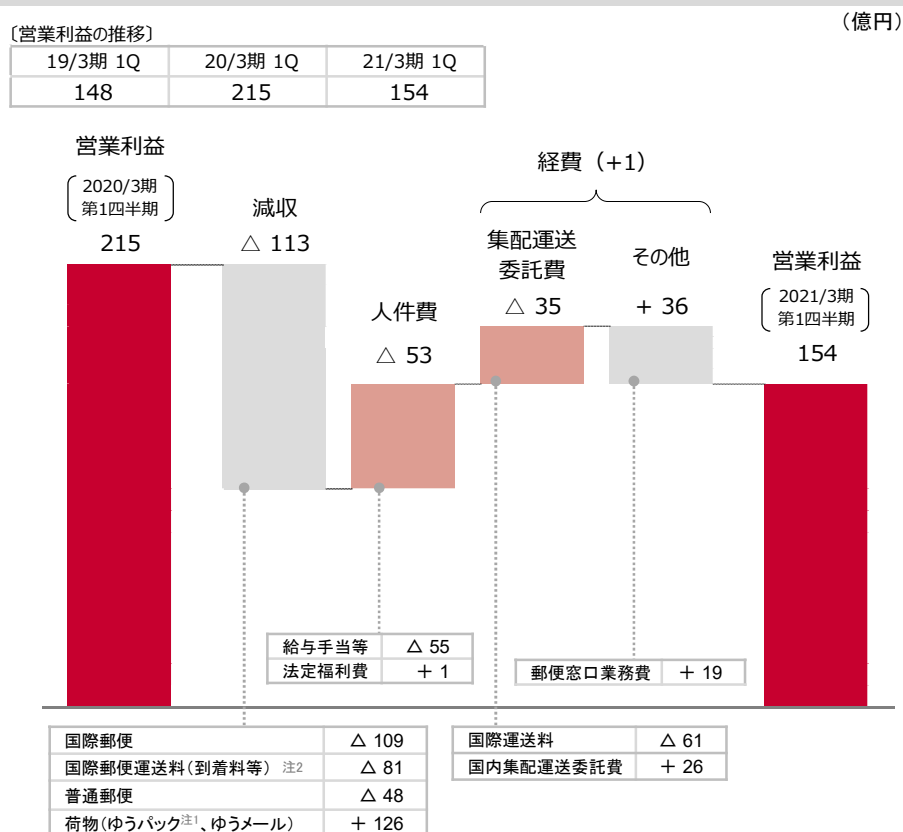
注1: 億円未満の決算数値は切捨て。また、日本郵政グループ数値と各社数値の合算値は、他の連結処理(持株会社・その他子会社の合算、グループ内取引消去等)があるため一致しない。

注2: 各社の数値は、各社を親会社とする連結決算ベース。また、「四半期純利益」及び「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」及び「親会社株主に帰属する当期純利益」の数値。

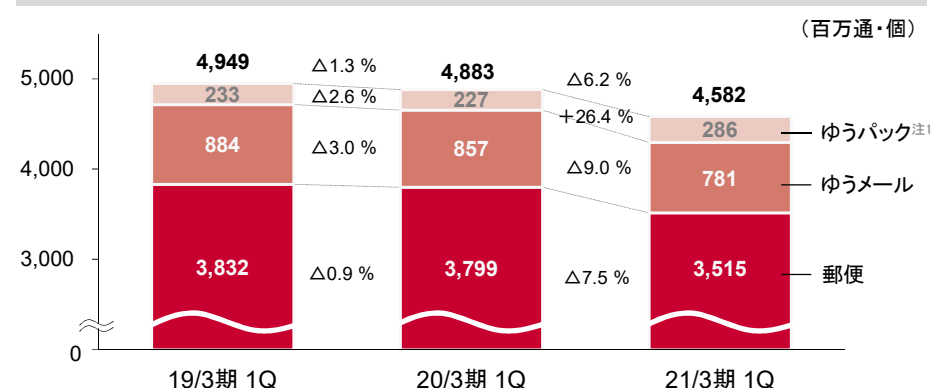
郵便・物流事業 決算の概要

- 取扱数量は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による経済活動の停滞もあり、総計で6.2%減（郵便は7.5%減、ゆうメールも9.0%減）。うち、ゆうパック^{注1}は、巣ごもり消費の増加に伴うEC利用の拡大により26.4%増（ゆうパケットは41.8%増）。
- 営業収益は、ゆうパックの増加により荷物が増収となったものの、取扱数量の減少や国際郵便物の引受停止等の影響により、前年同期比113億円（2.3%）の減収。
- 営業費用もコストコントロールの取組等により減少したものの、営業利益は前年同期比61億円（28.4%）の減益。

営業利益の増減分析(前年同期比)



取扱数量の推移



当第1四半期の経営成績

(億円)

	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	増減
営業収益	4,901	5,015	△ 113
営業費用	4,747	4,800	△ 52
人件費	3,051	3,105	△ 53
経費	1,696	1,694	+ 1
営業利益	154	215	△ 61

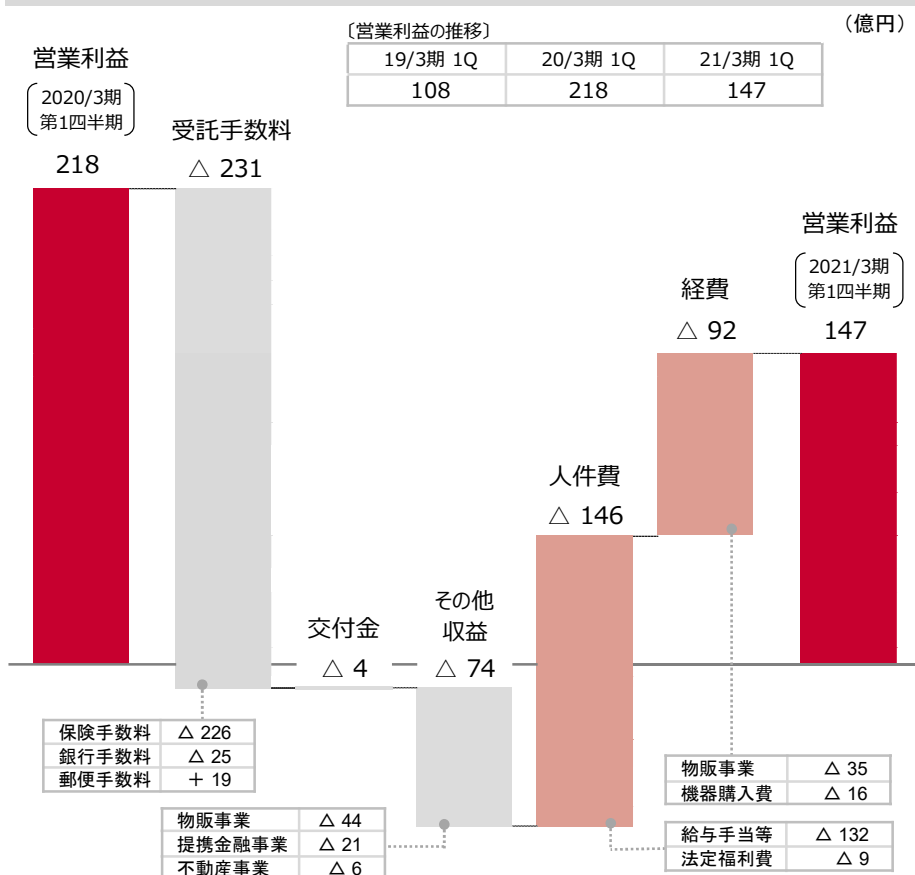
注1：「ゆうパック」には、ゆうパケットを含む。

注2：国際eパケットライト郵便物等に係る過年度の過大計上の一括補正(△70億円)を含む。

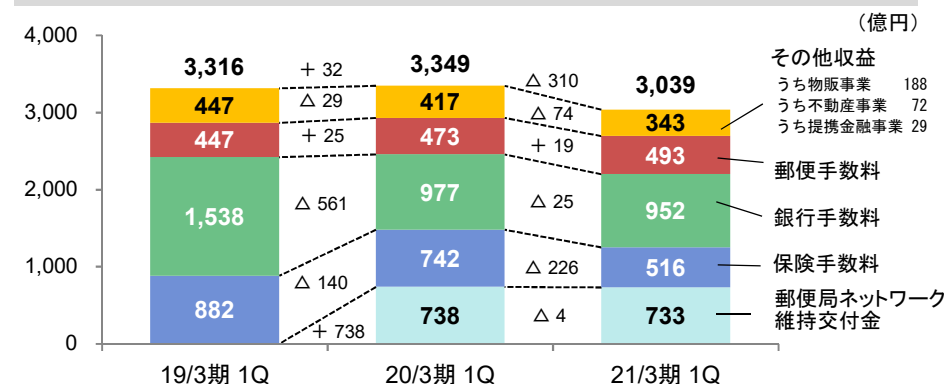
金融窓口事業 決算の概要

- 営業収益は、かんぽ商品の積極的な提案を控えていることによる保険手数料の大幅な減少や、新型コロナウイルス感染拡大の影響等による物販事業はじめその他収益の減収により、前年同期比310億円（9.3%）の減収。
- 営業費用は、かんぽ商品の販売に係る営業手当の減少等により、前年同期比239億円（7.6%）減少したものの、営業利益は前年同期比71億円（32.6%）の減益。

営業利益の増減分析(前年同期比)



収益構造の推移



当第1四半期の経営成績

(億円)

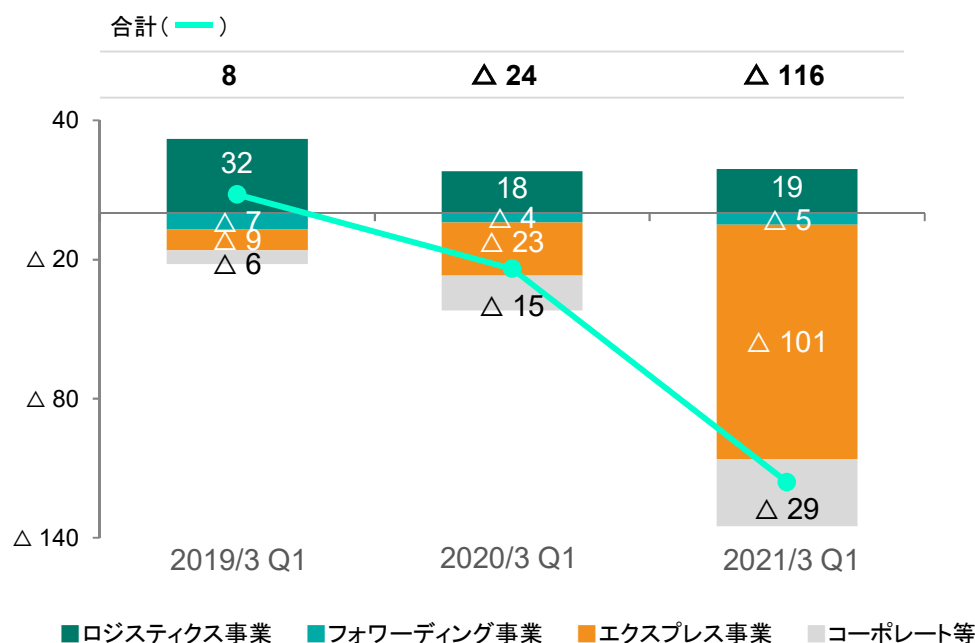
	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	増減
営業収益	3,039	3,349	△ 310
営業費用	2,891	3,130	△ 239
人件費	2,096	2,242	△ 146
経費	795	888	△ 92
営業利益	147	218	△ 71

国際物流事業 決算の概要

- 営業収益は、エクスプレス事業が新型コロナウイルスや標的型サイバー攻撃の影響に伴う取引量の減少により減収となる一方、ロジスティクス事業アジア部門において新型コロナウイルス感染予防対策物資の大口取扱いが発生し、全体では546百万豪ドル(26.2%)の増収。
- 営業費用は感染予防対策物資の大口取扱いに伴い経費が大幅増、また、エクスプレス事業のコスト削減も減収を打ち返すまでに至らず、営業損益(EBIT)は116百万豪ドルの赤字を計上(前年同期から赤字幅拡大)。

事業別の営業損益(EBIT)の推移

(百万豪ドル)



当第1四半期の経営成績

(百万豪ドル、下段括弧内は億円)

	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	増減
営業収益	2,627 (1,856)	2,080 (1,601)	+ 546 (+ 254)
営業費用	2,743 (1,938)	2,105 (1,620)	+ 637 (+ 317)
人件費	656 (463)	683 (526)	△ 27 (△ 62)
経費	2,086 (1,474)	1,422 (1,094)	+ 664 (+ 380)
営業損益 (EBIT)	△ 116 (△ 82)	△ 24 (△ 19)	△ 91 (△ 62)

注1: 営業収益、営業費用及び営業損益(EBIT)は、トール社、JPTールロジスティクス社及びトールエクスプレスジャパン社の数値の合計額をそれぞれ記載。

注2: 2020/3期からのIFRS第16号(リース)適用により、グラフ及び表の2020/3期及び2021/3期の数値はIFRS第16号(リース)適用後の数値を記載。

注3: 2021/3期からのセグメント間の一部事業の組替えにより、グラフの2020/3期及び2019/3期の数値を組替え(それぞれ全体合計額は一致)。

注4: 表の下段括弧内は期中平均レート(2021/3期第1四半期 70.65円/豪ドル、2020/3期第1四半期 76.94円/豪ドル)での円換算額をそれぞれ記載。

日本郵便 決算の概要（まとめ）

- 営業収益は、国際物流事業が新型コロナウイルス感染予防対策物資の大口取扱いにより増収であったものの、郵便・物流事業及び金融窓口事業の減収により、前年同期比185億円（2.0%）減収（うち、為替影響による減収が119億円）。
- 営業費用は、郵便・物流事業及び金融窓口事業が減少したものの、国際物流事業の増加により、ほぼ横ばい（うち、為替影響による減少が122億円）。その結果、営業利益は前年同期比197億円（49.2%）減の204億円、経常利益は184億円（49.0%）減の192億円、四半期純利益は187億円（52.9%）減の166億円。

四半期純利益の増減分析（前年同期比）

〔営業利益の推移〕

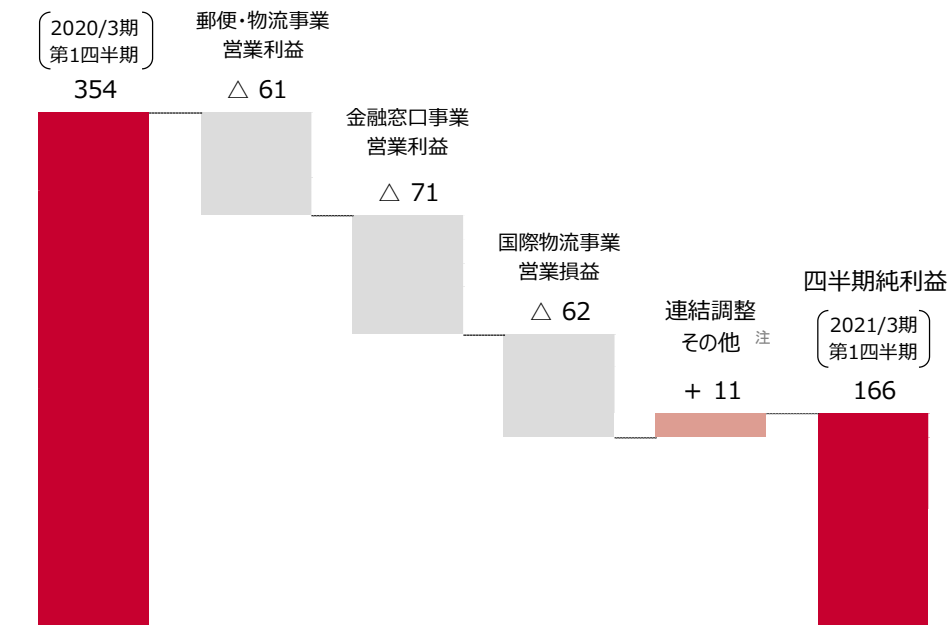
19/3期 1Q	20/3期 1Q	21/3期 1Q
251	402	204

〔四半期純利益の推移〕

19/3期 1Q	20/3期 1Q	21/3期 1Q
229	354	166

（億円）

四半期純利益



当第1四半期の経営成績

（億円）

	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	増減
営業収益	9,258	9,443	△ 185
営業費用	9,053	9,040	+ 12
人件費	5,612	5,874	△ 262
経費	3,441	3,166	+ 274
営業利益	204	402	△ 197
経常利益	192	376	△ 184
特別損益	△ 0	4	△ 5
税引前四半期純利益	191	381	△ 190
四半期純利益	166	354	△ 187

注：「連結調整その他」は、「連結調整」、「営業外損益」、「特別損益」、「法人税等」及び「非支配株主損益」の前年同期比での増減の合計。

ゆうちょ銀行（単体） 決算の概要

当第1四半期の経営成績

	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	増減
業務粗利益	3,057	3,644	△ 587
資金利益	1,933	2,566	△ 632
役務取引等利益	318	331	△ 13
その他業務利益	805	746	+ 58
うち外国為替売買損益	798	734	+ 63
うち国債等債券損益	6	18	△ 12
経費 ^{注1}	2,528	2,630	△ 101
一般貸倒引当金繰入額	—	0	△ 0
業務純益	528	1,013	△ 485
臨時損益	△ 109	43	△ 152
経常利益	419	1,057	△ 638
四半期純利益	330	777	△ 447
(参考:連結決算情報)			
経常収益	3,876	4,638	△ 762
経常利益	420	1,057	△ 636
四半期純利益 ^{注2}	332	778	△ 446

注1: 臨時処理分を除く。

注2: 親会社株主に帰属する四半期純利益の数値を記載。

注3: 未払利子を除く。

概要

- 新型コロナウイルス感染拡大による影響や、低金利環境の継続など、非常に厳しい経営環境下、当第1四半期の業務粗利益は、前年同期比587億円減少の3,057億円。
このうち、資金利益は、有価証券利息が減少し、前年同期比632億円の減少。
役務取引等利益は、前年同期比13億円の減少。
その他業務利益は、前年同期比58億円の増加。
- 経費は、前年同期比101億円減少の2,528億円。
- 業務純益は、前年同期比485億円減少の528億円。
- 経常利益は、前年同期比638億円減少の419億円。
- 四半期純利益は、330億円、前年同期比447億円の減益。

	2021/3期 第1四半期	2020/3期	増減
貯金残高 ^{注3}	1,874,800	1,830,047	+ 44,752

ゆうちょ銀行（単体） 資金利益の内訳等

資金利益の内訳

(億円)

	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	増減
資金利益	1,933	2,566	△ 632
資金運用収益	2,555	3,355	△ 800
うち国債利息	962	1,170	△ 208
うち外国証券利息	1,370	1,907	△ 537
資金調達費用	621	789	△ 167

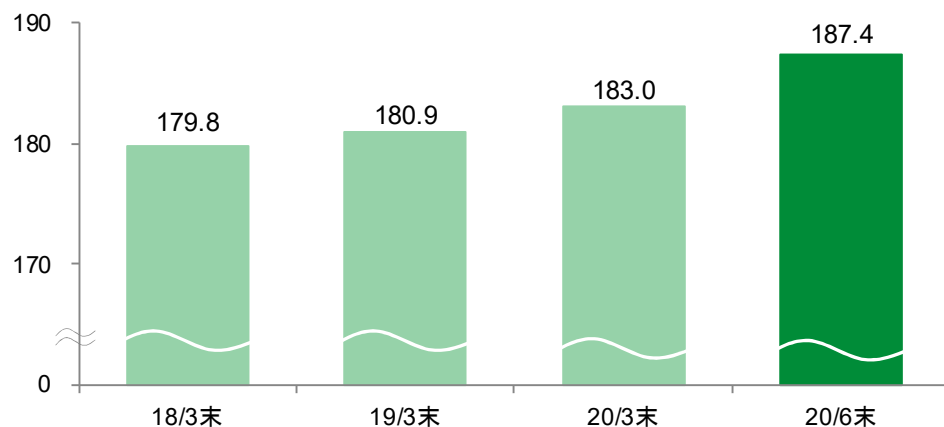
役務取引等利益の内訳

(億円)

	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	増減
役務取引等利益	318	331	△ 13
為替・決済関連手数料	209	199	+ 9
ATM関連手数料	48	44	+ 3
投資信託関連手数料	34	63	△ 29
その他	26	23	+ 2

貯金残高

(兆円)



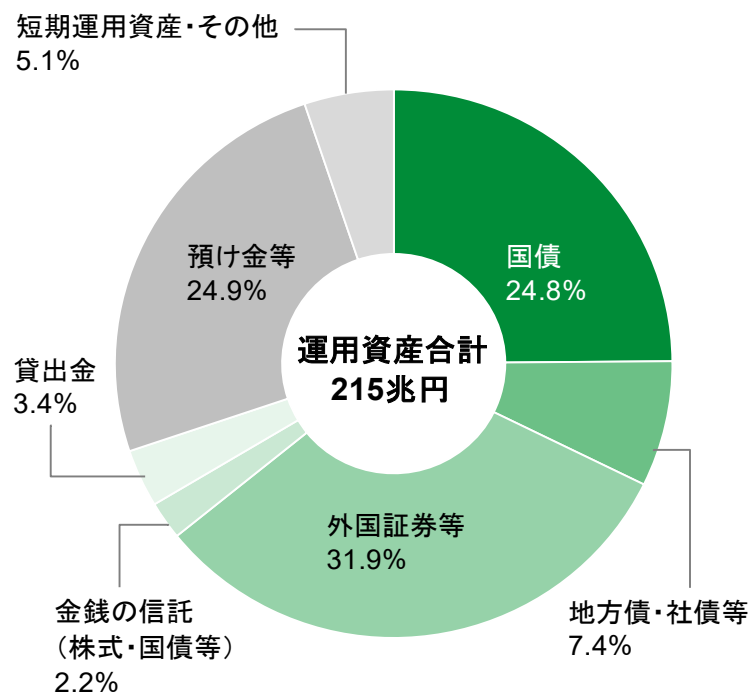
注: 表示単位未満は切捨て。

投資信託の取扱状況（約定ベース）

	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	増減
販売件数(千件)	835	689	+ 145
販売額(億円)	480	2,462	△ 1,981

	2020/6末	2019/6末	増減
保有口座数(千口座)	1,189	1,129	+ 60
純資産残高(億円)	23,746	24,201	△ 455

ゆうちょ銀行（単体） 資産運用の状況



	2021/3期 第1四半期	構成比 (%)	2020/3期	構成比 (%)	増減
有価証券	1,384,062	64.1	1,351,984	65.1	+ 32,077
国債	535,791	24.8	536,361	25.8	△ 569
地方債・社債等 注1	159,927	7.4	159,048	7.6	+ 879
外国証券等	688,343	31.9	656,575	31.6	+ 31,768
うち外国債券	236,131	10.9	237,068	11.4	△ 937
うち投資信託 注2	451,692	20.9	419,010	20.1	+ 32,682
金銭の信託 (株式・国債等)	48,084	2.2	45,497	2.1	+ 2,587
うち国内株式	21,160	0.9	18,596	0.8	+ 2,563
貸出金	73,351	3.4	49,617	2.3	+ 23,733
預け金等 注3	538,794	24.9	514,854	24.8	+ 23,940
短期運用資産・ その他 注4	111,789	5.1	113,242	5.4	△ 1,453
運用資産合計	2,156,082	100.0	2,075,196	100.0	+ 80,886

注1: 「地方債・社債等」は地方債、短期社債、社債、株式。

注2: 投資信託の投資対象は主として外国債券。

注3: 「預け金等」は譲渡性預け金、日銀預け金、買入金銭債権。

注4: 「短期運用資産・その他」はコールローン、買現先勘定等。

かんぽ生命 決算の概要

当第1四半期の経営成績

	2021/3期 第1四半期	2020/3期 第1四半期	(億円、%) 増減
経常収益	16,963	18,189	△ 1,225
経常費用	16,264	17,629	△ 1,365
経常利益	699	560	+ 139
四半期純利益	467	337	+ 129

(参考: 単体決算情報)

基礎利益	1,104	908	+ 195
キャピタル損益	△ 382	△ 316	△ 65
臨時損益	△ 26	△ 33	+ 7
経常利益	695	558	+ 137

個人保険 新契約 年換算保険料	60	935	△875
--------------------	----	-----	------

	2021/3期 第1四半期	2020/3期	増減
個人保険 保有契約 年換算保険料 ^{注1}	42,038	43,186	△ 1,147

連結ソルベンシー・ マージン比率	1,121.5	1,070.9	+ 50.6
---------------------	---------	---------	--------

連結実質純資産額	123,327	123,509	△ 182
----------	---------	---------	-------

概要

- 基礎利益は、2020年4月以降もかんぽ商品の積極的な提案を控えていることによる事業費負担の減少等により、前年同期比195億円増の1,104億円。
- 経常利益は、金銭の信託運用損等によりキャピタル損失が増加したものの、基礎利益の増加等により、前年同期比139億円増の699億円。
- 四半期純利益は、基礎利益の増加等により、前年同期比129億円増の467億円。通期業績予想に対して37.7%の進捗率。
- 新契約年換算保険料は、個人保険・第三分野ともに前年同期比で大幅に減少。保有契約年換算保険料も、個人保険・第三分野ともに前期末比で減少。^{注1、注3}
- 危険準備金および価格変動準備金を合計した内部留保額は、2兆6,359億円。健全性の指標である連結ソルベンシー・マージン比率は、1,121.5%、連結実質純資産額は、12兆3,327億円と引き続き高い健全性を維持。

注1: 保有契約には簡易生命保険の保険契約を含む。簡易生命保険の保険契約は、独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構から受再している簡易生命保険の保険契約をいう。

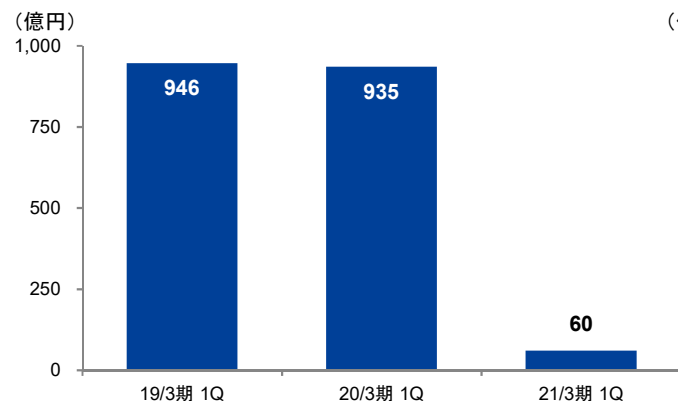
注2: 金額は億円未満を切捨て。

注3: 第三分野の新契約及び保有契約年換算保険料の数値は、P10「保険契約の状況」を参照。

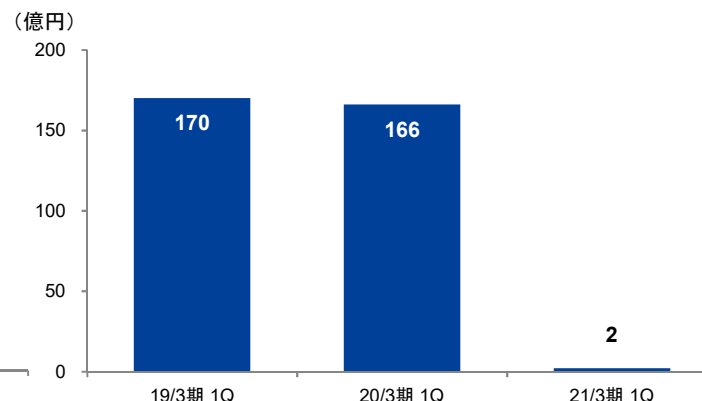
かんぽ生命 保険契約の状況

新契約

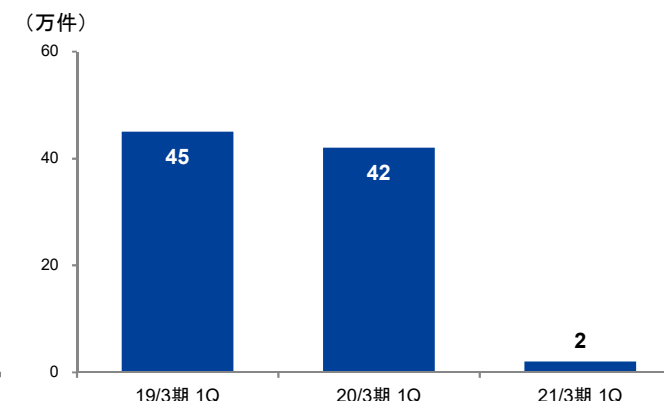
新契約年換算保険料（個人保険）



新契約年換算保険料（第三分野）

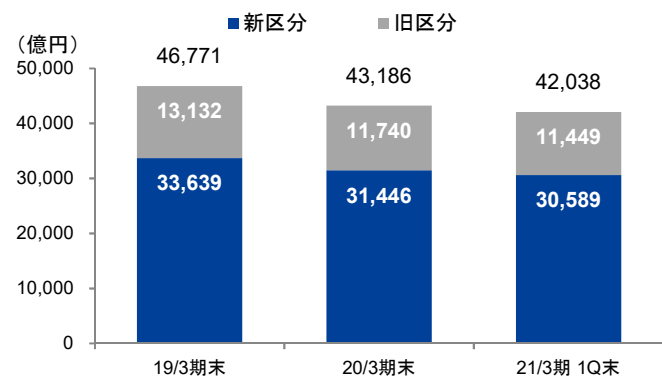


新契約件数（個人保険）

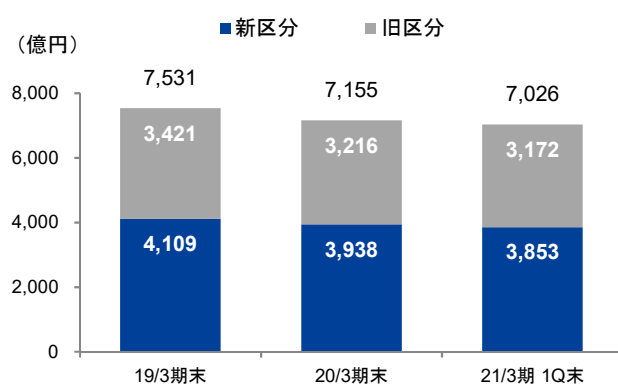


保有契約

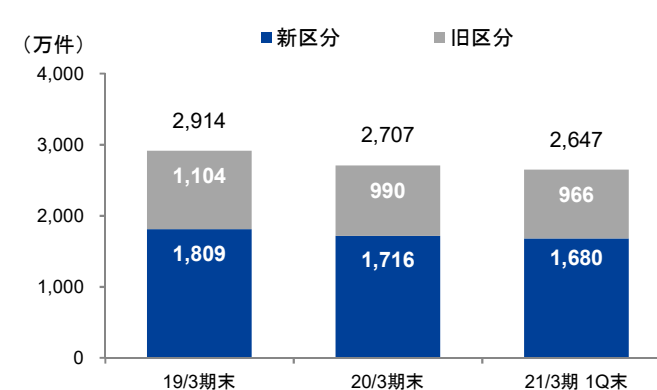
保有契約年換算保険料（個人保険）



保有契約年換算保険料（第三分野）



保有契約件数（個人保険）



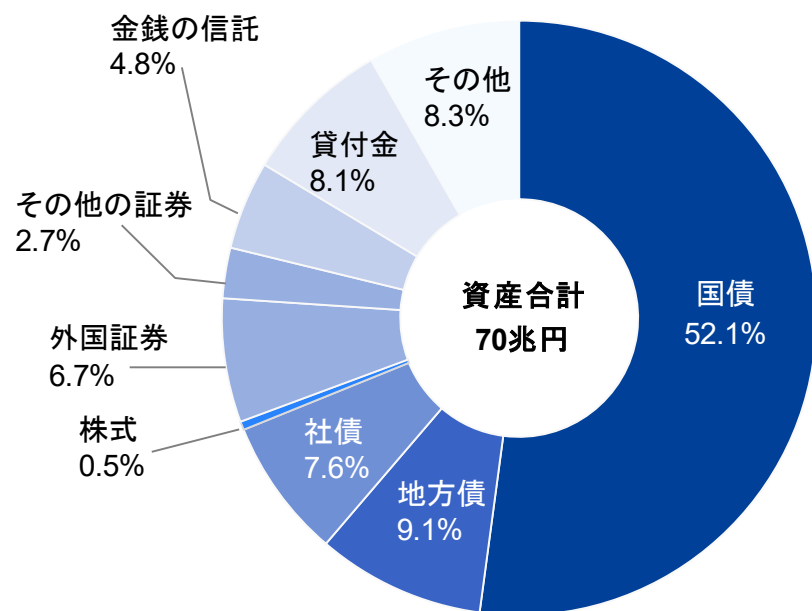
注1: 年換算保険料は億円未満、契約件数は万件未満を切捨て。

注2: 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額（一時払契約等は、保険料を保険期間等で除した金額）。

年換算保険料（個人保険）は個人保険に係る第三分野を含み、年換算保険料（第三分野）は個人保険と個人年金保険に係る第三分野の合計値。

注3: 「新区分」は、かんぽ生命保険が引受けた個人保険を示し、「旧区分」は、かんぽ生命保険が独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構から受再している簡易生命保険契約（保険）を示す。

かんぽ生命 資産運用の状況

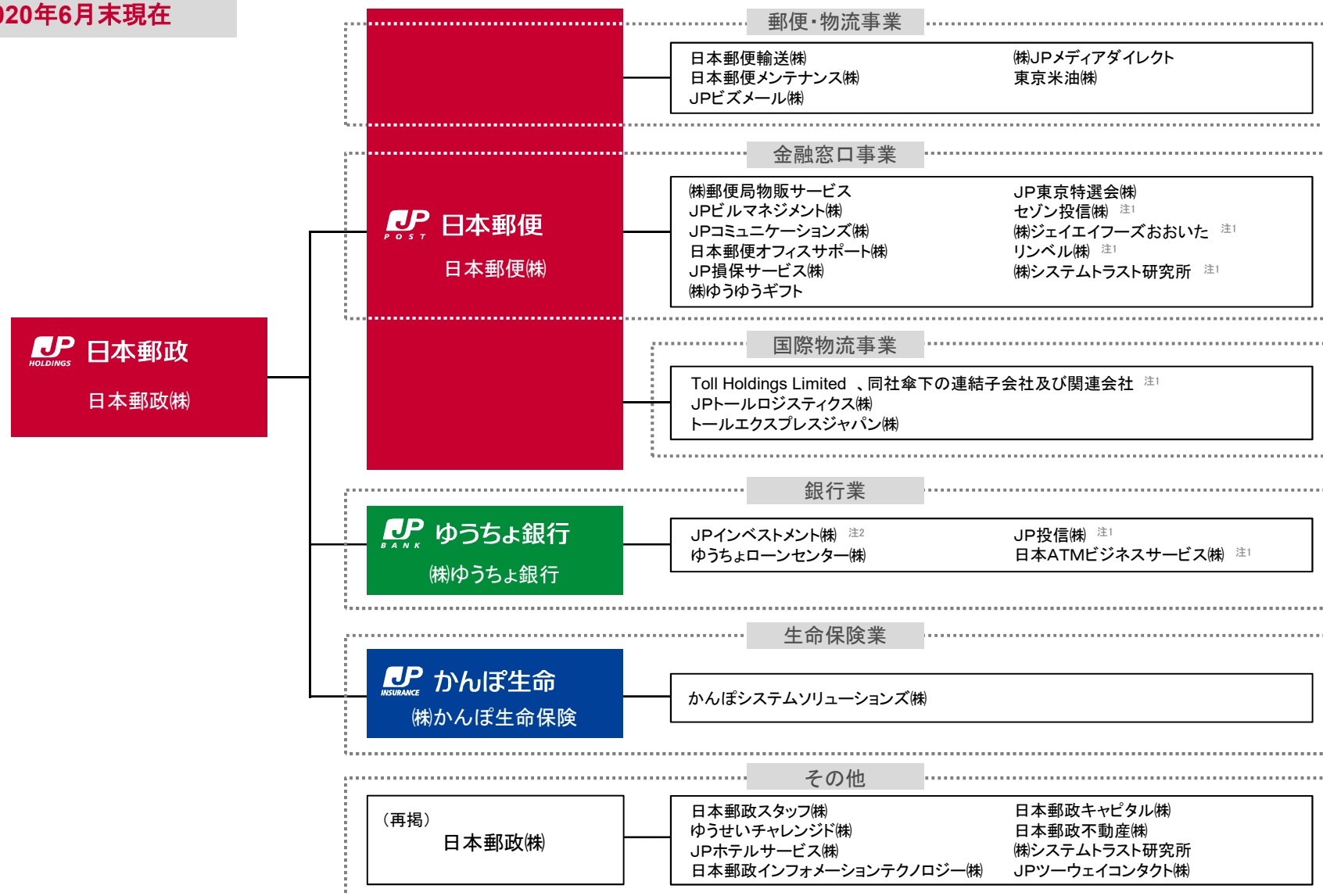


(億円)

	2021/3期 第1四半期	構成比 (%)	2020/3期	構成比 (%)	増減
有価証券	558,014	78.8	558,705	78.0	△ 691
国債	369,066	52.1	367,307	51.3	+ 1,759
地方債	64,730	9.1	67,373	9.4	△ 2,643
社債	53,790	7.6	54,863	7.7	△ 1,073
株式	3,250	0.5	2,859	0.4	+ 390
外国証券	47,728	6.7	46,873	6.5	+ 855
その他の証券	19,447	2.7	19,427	2.7	+ 20
金銭の信託	34,081	4.8	30,560	4.3	+ 3,521
貸付金	57,087	8.1	56,627	7.9	+ 459
その他	58,834	8.3	70,754	9.9	△ 11,919
総資産	708,018	100.0	716,647	100.0	△ 8,629

〔参考1〕 グループ会社関係図

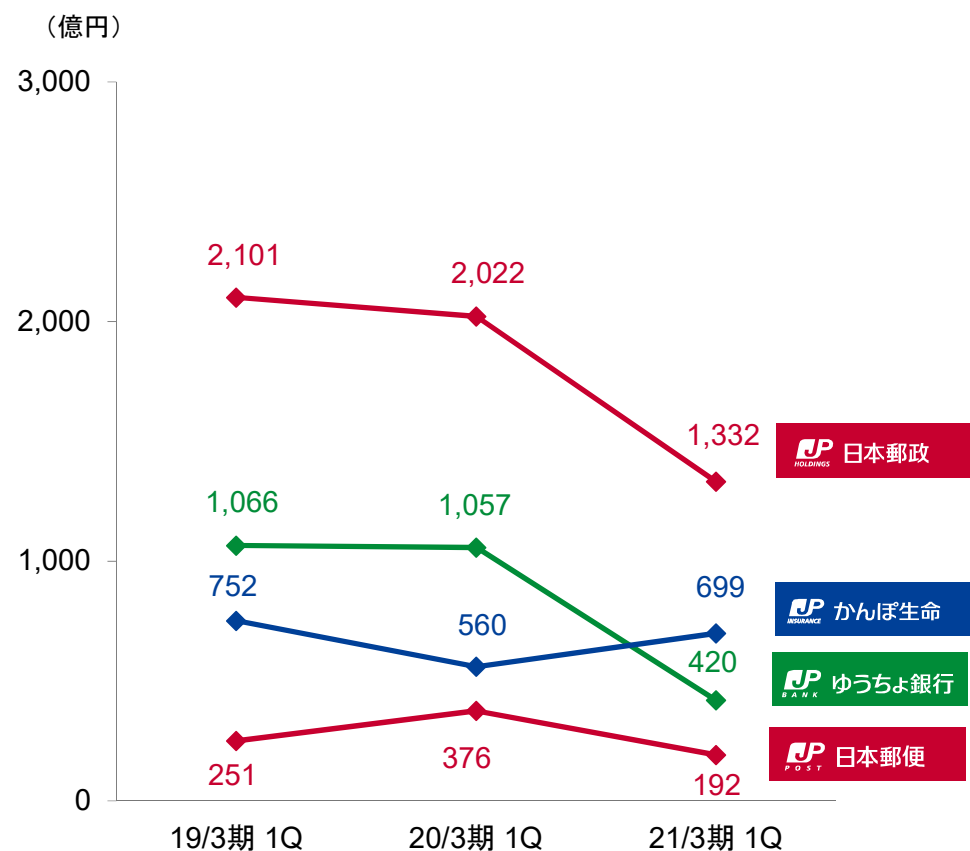
2020年6月末現在



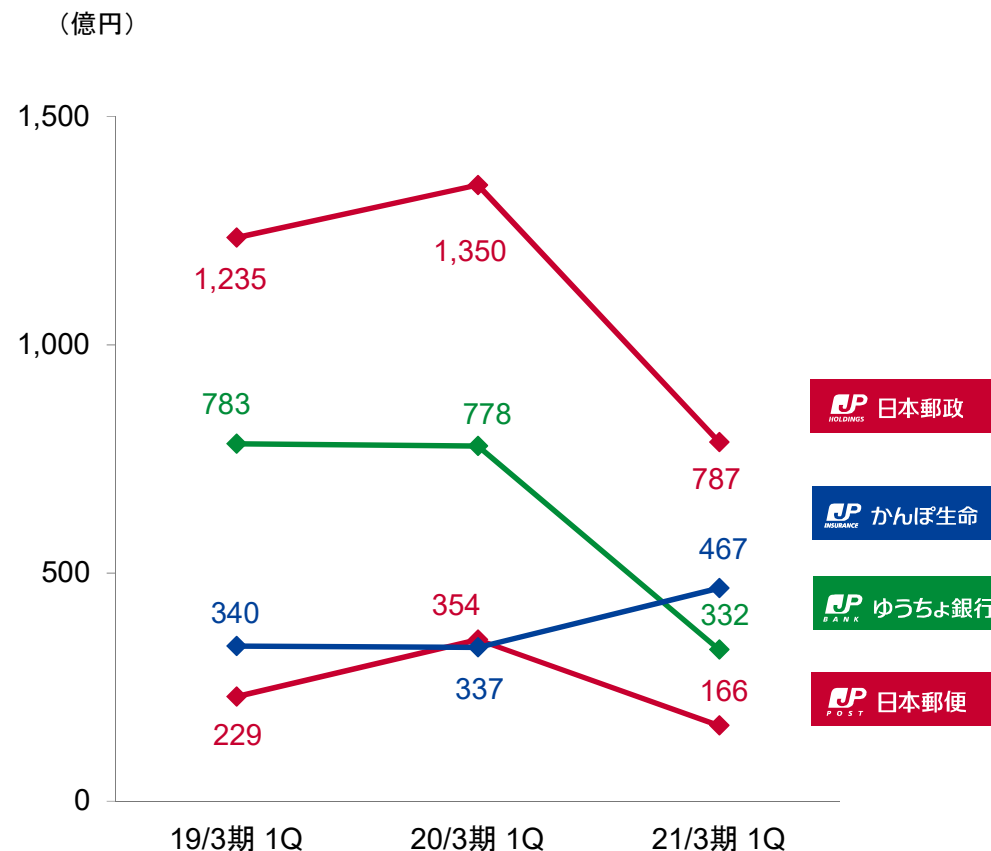
注1: 持分法適用関連会社 注2: 傘下の連結子会社含む

〔参考2〕 経常利益・四半期純利益の推移

経常利益の推移



四半期純利益の推移



本資料に記載されている通期業績予想等将来に関する記述は、2020年6月末時点において当社が把握している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。実際の業績等は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響、金利の変動、株価の変動、為替相場の変動、保有資産の価値変動、経済・金融環境の変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、法規制の変更等様々な要因により大きく異なる可能性があります。